あさひげんき通信2月号

旭地区の人口と世帯数（令和４年１月１日現在）

人　　口	２，４５３名	（前月比 －２人）
世 帯 数	１，０３９世帯	（前月比 ＋２世帯）

空き家情報バンク制度による移住実績

令和４年度（１月３１日現在）	２組　３名
制度開始（平成２２年度）以降の累計	８２組１９３名

旭地区コミュニティ会議

◆ 旭地区新成人を祝う会 ◆

令和４年１月９日（日）、旭交流館において「旭地区新成人を祝う会」が開催されました。当日は雲一つない晴天に恵まれ、豊田市議会から三江弘海市議、海老澤要造市議をはじめとする来賓の方々、旭中学校の恩師の先生方、ご家族や実行委員の皆さんに温かく見守られ、１７名の新成人が新たな門出を迎えました。

受付時間になると、スーツや振り袖に身を包んだ新成人が集まり、久しぶりの再会を喜び合い、笑顔があふれました。

新型コロナウイルス感染症の感染予防措置をしっかりと整えた中での開催となりました。国歌斉唱も「静聴」となる静かな雰囲気の中、会は粛々と進められました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスク着用、手指消毒、検温を徹底し、会場もアクリル板の設置、マイク消毒、換気を行いました。写真撮影時のみマスクを外しています。

（文・写真　旭地区コミュニティ会議 広報部会）

第１部　記念式典

豊田市役所旭支所　鈴木支所長による豊田市長の祝辞の代読に続き、三江市議からは、「新成人として、いっそう社会に関心を持つことの大切さ、また、故郷「旭」に生まれたことを誇りとして人生を送ってほしい。」とのお祝いのことばをいただきました。

新成人誓いの言葉

「新成人の誓いの言葉」を新成人代表の近藤瞭次郎さんが読み上げ、新成人としての責任の大きさと、大人の仲間入りをした喜びを噛み締めていました。

記念植樹披露

昨年の 12 月 5 日（日）に、４名の新成人代表と実行委員が旭高原にて記念植樹したときの様子を、新成人の原田りのさんが披露しました。植えられたしだれ桃は、旭高原の春を彩り、見る人の心を癒してくれることでしょう。

新成人の記念品授与

新成人の記念品として、新成人実行委員が選んだ青森県の伝統工芸品「津軽びいどろ」のロックグラスが、新成人代表の成本航太さんに授与されました。

（文・写真　旭地区コミュニティ会議 広報部会）

第２部　記念行事

第２部の前半では、新成人実行委員が中心となり、中学校時代の恩師の方々とともに楽しい時間を過ごしました。

はじめに、新成人の伊藤弘紀さんの司会でビンゴゲーム大会が行われました。番号が読み上げられるたびにあちこちで歓声があがり、大盛り上がりとなりました。いつの間にか中学校の教室の中を思い出させる雰囲気になっていました。

「リーチ！」「ビンゴ！」とゲームが進むにつれ、新成人実行委員の皆さんにより事前に準備された楽しい景品に思わず笑顔がこぼれました。

新成人のお祝いに旭中学校時代の恩師７名が駆けつけてくださり、無事成人となった姿を見ていただく事ができました。ビンゴゲームの合間などに、懐かしい思い出話に花が咲いていました。

（文・写真　旭地区コミュニティ会議 広報部会）

第２部の後半では、恩師からのメッセージをいただきました。伊藤秀治元校長先生からは、中学校時代の校長だよりを保存したＣＤ-ROM が一人ひとりに贈られ、過去から学び、未来に生かす大切さを教えていただきました。また、学年主任の児島由紀子先生、担任の稲井大輔先生からの温かいお祝いの言葉に、成人となった喜びを噛み締めているようでした。

最後に、新成人を代表して田澤花歩さんが、「変わらない友達や帰る場所があることを心の支えに、それぞれの最高の自分を目指してがんばっていきたい。」とお礼の言葉を述べ、第２部の幕を閉じました。

終了後、会場の外では家族や先生たちと写真を撮ったり、語り合ったりして余韻を楽しんでいました。

～編集雑記～

本会の開催にあたり、数か月前から準備を進め、会の企画・運営から会場の設営・片付けまで、旭地区新成人を祝う会実行委員会の委員により進めていただきました。ありがとうございました。

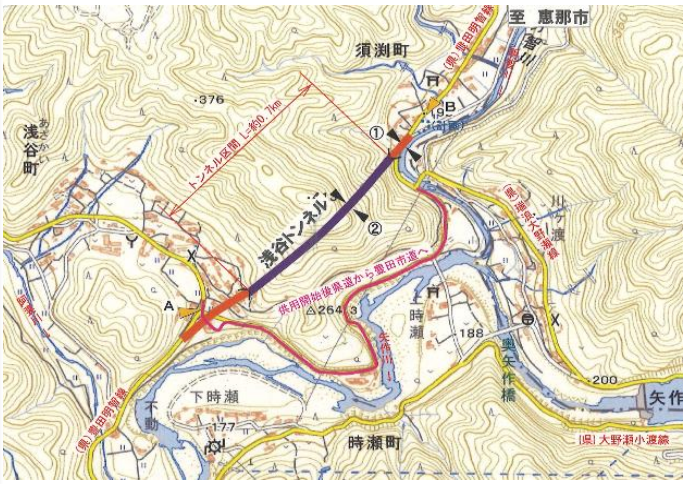
広報部会　Ｙ

（文・写真　旭地区コミュニティ会議 広報部会）

トピックス

地域の話題

浅野自治区の話題　～ 県道豊田明智線 バイパス事業が始まります！ ～



県道豊田明智線の浅谷町から須渕町までの区間は、道幅が狭く、車のすれ違いもままならない難所です。道路を拡幅するには、大規模な工事となります。ならばトンネルを掘ってはどうかとの声が以前からありましたが、なかなか実現に結びつきませんでした。そして、ついに住民の悲願であったバイパス事業が動き出しました。

トンネルの全長約７００ｍ、幅約１０ｍ（車道・歩道）、入口と出口の標高差約１０ｍ、という規模の計画だということです。トンネルだけではなく、その出入口周辺の道路も整備が必要で、今後、その工事が徐々に進められていくことになっています。工事費用の総額や完成時期については、まだはっきり言える段階ではないそうですが、開通の暁には、通行する愛知県・岐阜県の人々に多大な恩恵をもたらしてくれると期待しています。

(浅野自治区 広報部からの投稿記事)

「山村条例」ができました！！

山村地域は、豊かな自然環境のほか、自然と共生する暮らしの中から生まれた歴史や文化、心の充足感や安心感など、次の世代に引き継いでいくべき様々な魅力や価値がたくさんあります。

豊田市では、こうした山村の魅力や価値を市全体で広く共有するとともに、共働による活力ある山村地域づくりと都市と山村の共生によるまちづくりを推進するため「豊田市山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する条例（略称 山村条例）を制定しました。

条例の３つのポイント

①広く市民に共有すべき「山村の価値」を定義しました

森林、田畑、川などの豊かな自然環境のほか、山村での暮らしの営みや感じられる幸せなど、広く市民に共有すべき「山村の価値」として定義しています。

②市の責務、市民・山村住民・事業者等の役割を明記しました

市は、市民・山村住民・事業者のみなさんと共に、山村地域の持続的発展と都市と山村の共生に関する施策を推進していきます。

③施策の総合的な推進体制を規定しました

条例が示す内容を総合的かつ計画的に推進していくために、令和２年度に策定した「おいでん・さんそんプラン」に沿って、施策を推進していきます。

【問合せ】企画課 おいでん・さんそん担当　電話　３４－６６０２

東海農政局「ディスカバー農山漁村の宝」に選定!!　（一社）押井営農組合

令和３年１２月１４日（火）、一般社団法人押井営農組合の皆さんが令和３年度東海農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」コミュニティ部門に選定され、押井町集会所で授与式が行われました。

これは、押井営農組合の皆さんが取り組んでいる集落を消滅の危機から救う「自給家族」の活動を通じて農地の保全に留まらず、関係人口の強化による地域コミュニティの存続に繋げる取り組みが評価され、今回の選定となりました。東海農政局の皆さんからも時代を先取りした先進的な取り組みだとして高い関心を示されていました。

足助消防署旭出張所からのお知らせ　～ 非常食の備えは１週間以上を目安に！～

南海トラフ巨大地震などの大地震発生時は、土砂崩れ等の甚大な被害で集落が孤立し、公的な支援物資がすぐに届きません。食料等の備蓄は３日分と言われますが、「１週間以上」が望ましいとの指摘もあります。非常食だけに捉われず、普段から少し多めの食材を買い置きして非常時に備えましょう。

※　下図は１週間を想定した備えと、非常食を定期的に食べたら買い足して常に新しい非常食を備蓄する「ローリングストック法」を取り入れた災害時の対処方法です。

【問合せ】足助消防署旭出張所　電話　６８－１１１９

足助警察署からのお知らせ

足助警察署　電話　６２－０１１０

～ サイバーセキュリティ対策で侵入・感染をブロック ～

インターネットは私たちの生活に欠かせないものになっていますが、それを悪用した詐欺、不正送金、情報流出等のサイバー犯罪から自分の財産や情報を守るためには、パソコンやスマートフォンのセキュリティ対策を行う必要があります。

＜　主なセキュリティ対策　＞

- パソコンやスマートフォンにウイルス対策ソフトをインストールする。
- ウイルス対策ソフトは、最新の状態に更新し、定期的に全データをウイルスチェックする。
- サポートの切れた OS は使わない。OS やウェブブラウザ等のソフトウェアを最新の状態にする。
- 電子メールの添付ファイルや本文中のリンクを安易に開かない。
- ダウンロード等により、自分のパソコンに取り込んだファイルは、開く前にウイルス対策ソフトでチェックする。
- スマートフォンでアプリ（ソフト）をダウンロードする際は、正規サイト等信頼できるサイトから取得し、アプリの機能や端末が自動で発する位置情報にも注意する。
- 被害の連鎖を防止するため、パスワードはサイトごとに別々にする。